

≪第2回≫研究会レポート

<概要>

1. 日時 : 2005年12月7日 (水) 18:15 ~ 19:45
2. 場所 : 株式会社ダスキン 本社会議室
3. 出席者 : 教育関係者8名 (小学校 5名、中学校 2名、教育委員会 1名)
4. タイムスケジュール

時間	内容
18:15	はじめに
18:20	学校掃除教育関連著書『段取り力』紹介
18:30	ディスカッション
	テーマ I : 掃除のもつ教育的効果としての「段取り力」研究
	3. 掃除で段取り力を育むための活動とは？
	4. 具体的な指導アイデアとその応用
19:40	今後の予定

<テーマディスカッションの内容>

テーマ : 掃除のもつ教育的効果としての「段取り力」研究

3. 掃除で段取り力を育むための活動とは？

学校では、どのような場面で、どのような活動が考えられるか？

第1回例会で出した段取り力を構成する11の構成要素について

学校現場ではどのような場面でどのような活動を行うと段取り力を育むことができるかのアイデアを各自で分担して出した。

段取り力の要素	場面	活動
①目標を持つ力	・掃除の開始時と終了時	①今までの掃除の仕方と今日の掃除の仕方の違いを考え、頑張るところを決める(目標を決める) ②ゴミが落ちていないかどうかのチェックをする ③評価活動(他の人に掃除の仕上がりを見せよう)を取り入れる
②限られた環境の中でやり通す	・理科室の掃除 ・15分間です ・担当人数が6~7人 ・掃除道具は -Tほうきとシュロほうき 6本 -ぞうきん -ちりとり二つ -黒板消し二つ	①掃除の参加者全員が掃除担当役割・場所を決める ②役割分担の中に監督者を決める ③監督者が掃除のチェックを行い、OKか継続かの指示を出す ④これを毎回最初に話し合い、役割を決める ⑤最後に先生に報告する
③先を見通す	—	—
④優先順位を決める	—	—
⑤計画力	・児童会の美化委員会 (大掃除・15分でもOK)	①全校に向けての発信内容を検討・企画 ②各クラスの委員が中心となりクラスの活動を考える 低学年への指導なら、自らの低学年時代を振り返り低学年の特徴を挙げ、「こんなことができるからやらせよう」「やらせるための工夫をどうするか？」を考える。
⑥必要なものや資料を準備する力	・大掃除に取り掛かる前	①場所ごとにどんな掃除道具がいくつ必要か個人またはグループで話し合っ決めて ・自分達で掃除道具を作る(高学年向け) ・道具の種類・数を言って、先生に提案する(先生に用意してもらう)

⑧無駄を省く	異学年による縦割り掃除を実施している家庭科教室 (学年によって家庭科教室に来るのがバラバラのため)	①掃除の手順を決めておき、場所に来た人から、その順番を割り当てる(役割は固定しない) ②児童に掃除の場所・手順を考えさせて担当させる ③先にきた人が、早い手順の活動を行う ④汚れている場所を重点的に掃除するよう、段階を分けておく ⑤絶対にしなければならないところを決めておく ⑥内容の優先順位と手順の優先順位を作る
⑨同時に進行する	・掃除の計画を立てるとき	①掃除の計画を立てる時に、活動内容を考えて、どの活動とどの活動が一緒に出来るかを考えさせる ・「掃く」と「モップかけ」は一緒にできない、「黒板拭き」と「机運び」は一緒にできるなど ②掃除の最中には、自分の分担する仕事をいつ行えばよいか、周りを見て判断し行う
⑩限られた時間で達成する	・15分の掃除時間内	①掃除の具体的な活動を考える ・手順を考える ・時間配分を考える(分担も含め) ②どのような動き順番でその活動をするとう率的にできるかを考える ③欠席者がいた場合、その人の分をフォローし、限られた時間内で実施するにはどうすればよいかを考える
⑪他の人の動きを見る力	・15分の掃除時間内	①他の人の動きを見る(マネをする)ことでよりよい動きを体得する ②ペアを決めておき、一定期間継続して活動を行う ③一定期間過ぎたらペアを変えて、またその相手の動きを見るようにさせる

テーマ：掃除のもつ教育的効果としての「段取り力」研究

4. 具体的な指導アイデアとその応用

11の力を育むためのさまざまなアイデアを、実際に児童にそれらの活動を行わせていく時、教師からの支援としてはどのようなことが考えられるかの具体的なアイデアを2人ずつペアを組んで考えた。

段取り力の要素	指導アイデア	他学年への発展	備考(応用アイデア)
② 限られた環境の中でやり通す	<ul style="list-style-type: none"> 配置図で区域割りを示す 仕事内容を示す 持ち物(道具:ぞうきん、ほうきなど)で決める 役割分担の決め方を示す(じゃんけんや話し合い) 監督者の役割を決める(一緒に掃除をするのか、監督係のみか) 	<ul style="list-style-type: none"> 中・低学年の場合、パターンを決めてしまう 同じ仕事分担を1週間続けて行う 子どもの監督は細かなチェック項目を作り、マルをつけるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 他の特別教室(家庭科室・パソコン室)
⑨ 同時に実行する力	<ul style="list-style-type: none"> 低学年:教師が掃除の内容を伝え、児童にどれとどれと一緒に出来るか考えさせ、決めさせる(役割分担カードを作っておき、児童に選ばせる) 人数が少ないときは、誰が複数の仕事を引き受けるか、反対の場合はどうするかを考えさせる 	<ul style="list-style-type: none"> 高学年の場合は、仕事の内容も自分自身で考えさせる 	<ul style="list-style-type: none"> タイムレースの形で時間を測ると、何と何を同時に行えるか見えてくるのでは?
⑦ 役割分担を行う(サンプル) ※吹田南小学校の事例を基にした指導アイデア	<ul style="list-style-type: none"> 15分の掃除活動時間内にて 	<ul style="list-style-type: none"> 特別教室の役割分担表を自ら作成する 	<ul style="list-style-type: none"> ①教室やトイレの手順を児童に説明する ②その手順にそって児童自ら役割分担を行い、掃除をする ③教室・トイレ掃除が慣れてきたあたり(2学期くらい)で、特別教室についても自分達で役割分担を考えさせる。 <p>※これができるようになったら、教室・トイレの手順も自分たちで見直させ、役割分担をどのように行えばよいかを考えさせる</p>
⑧ 無駄を省く	<ul style="list-style-type: none"> 掃除の内容と箇所、手順に優先順位をつけるヒントを与える(高学年の場合は口頭で) いくつかの掃除パターンを提示する 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に掃除の内容と箇所の役割分担表を作成させる 班長が今日の掃除パターンを決め、監督する 	<ul style="list-style-type: none"> パターン別に役割分担表を作成する(パターン別:手抜き掃除パターン、しっかり掃除パターンなど)
⑩ 限られた時間の中で達成する	<ul style="list-style-type: none"> 時計のないところに時計を設置する 文字盤にテープを貼り、わかるようにする 手順表を貼る(イメージトレーニング) 	<ul style="list-style-type: none"> 今日のポイントを決め、時間配分を考えさせ掃除を行う(高学年) 	<ul style="list-style-type: none"> BGMを3曲くらいにし、前半・中盤・後半で音楽に緩急をつける(聴覚に訴える)